2022 年度理事会，学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

第 65 回一般社団法人日本糖尿病学会年次学術集会は，小川渉会長主宰のもとに 2022 年 5 月 12，13，14 日の 3 日間，神戸ポートピアホテル，神戸国際展示場，神戸国際会議場において開催された．これに先立ち学術評議員会は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により前回と同様に一堂に会しての開催は行わず，各付議事項に対して「MyPage」から決議事項への賛否および会長選の投票を行った．5 月 6 日～5 月 9 日の 4 日間を回答期間とし，有効期間内における回答をもって今回の学術評議員会に出席したと見做すこととした．また，理事会が 5 月 11 日に，定時社員総会が 5 月 12 日にいずれも神戸ポートピアホテルで開催された．

1. 2021 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 64 回年次学術集会

会　長　戸邉一之（富山大学）
会　期　2021 年 5 月 20 日（木）～22 日（土）
会　場　完全 WEB 開催
参加者　12,325 名

○会長講演
○理事長声明
○学会賞受賞講演
ハーゲドーン賞：植木浩二郎「インスリン作用の障害による 2 型糖尿病の発症機構の分子メカニズム解明とそれに基づく治療法の開発」
リリー賞：粟澤元晴「肝臓を中心とした臓器間クロストークによる代謝制御機構の解明」
白川　純「ヒトの膵 β 細胞量増大による糖尿病治療を目指した基礎的研究」
女性研究者賞：中司敦子「糖尿病合併症におけるバスピンの作用と新たな病態解明」
○特別講演　C. Ronald Kahn「Defining the Intrinsic Molecular Defects Underlying Insulin Resistance in Human Type 2 Diabetes Using a Disease-in-a-Dish Model」
○特別講演　門脇　孝「2 型糖尿病―サイエンスの進歩とヒューマニティ」
○特別講演　石黒　浩「糖尿病患者のこころがわかるロボットの開発は可能か？」
○会長講演　戸邉一之「日々の診療での気付きから新しい糖尿病学を切り拓く」
○会長特別企画　インスリン発見から 100 年記念企画
○会長特別企画　日本の糖尿病学の歴史・到達点とこれからの課題を考える
○会長特別企画　Meet the Cell Metabolism Editor Session
○記念企画　インスリン発見とインスリン分泌・インクレチン 100 年の歴史
○ Meet-the-Professor　糖尿病医としての 40 年を振り返って
○公募企画　病院全体の糖尿病力を上げる
○公募企画　COVID-19 のパンデミックを経験して～私たちが糖尿病患者にできること，これからの診療・教育研究のあり方～
○ディベート　次に投与する薬剤は何か？～薬剤選択に迷う症例～（公募企画 3）
○ディベート　高度肥満症例 内科的治療 vs 外科的治療（公募企画 4）
○ディベート　サルコペニアかつ腎症を合併した糖尿病：サルコペニアの治療を優先 vs 腎症の治療を優先
○会長企画―研究者のサークルを作ろう
糖尿病基礎研究最前線
○会長企画―研究者のサークルを作ろう
膵 β 細胞の新しい治療ターゲット
○会長企画―研究者のサークルを作ろう
女性，連携，新しい糖尿病学を切り拓く
○会長企画―研究者のサークルを作ろう
臨床研究からみる糖尿病・糖尿病合併症のリスクとその管理～本邦における最新の知見～
○会長企画―研究者のサークルを作ろう
データサイエンスが拓く次世代の糖尿病の臨床研究・疫学研究
○会長企画　分子糖尿病学研究の最前線～新たな治療標的を求めて～
○シンポジウム
地域全体における糖尿病力をあげる　他 30 題
○教育講演
1 型糖尿病の病態と診断　他 31 題
○Web で Talk

リス☆カン
○Web で Talk
日本糖尿病医療学学会合同企画シンポジウム
日々の診療での気づきから
新しい糖尿病学を切り拓く
○The 9th East-West Forum
Which outcomes are driving the therapeutic perspectives―differences and similarities―
○Diabetology International セッション
○AASD/JDI モーニングセミナー
○若手研究助成金成果報告会　10 題
○若手研究奨励賞　審査口演　15 題
○医療スタッフ優秀演題賞　審査口演　10 題
○一般演題 1,176 題（口演 883 題，ポスター 293 題）

2.「糖尿病学の進歩」
第 56 回「糖尿病学の進歩」
世話人　大澤春彦（愛媛大学）
会　期　2022 年 2 月 25 日（金）～26 日（土）
オンデマンド配信：2022 年 2 月 25 日（金）～3 月 14 日（月）
会　場　WEB 開催で実施
参加者　3,654 名

3. 地方会活動
1）第 55 回日本糖尿病学会北海道地方会
会　期　2021 年 10 月 31 日（日）
会　場　WEB 開催
会　長　滝山由美（旭川医科大学）
参加者　647 名
2）第 59 回日本糖尿病学会東北地方会
会　期　2021 年 11 月 6 日（土）Hybrid 開催
オンデマンド配信期間：2021 年 11 月 15 日（月）～24 日（水）
会　場　仙台国際センター
会　長　片桐秀樹（東北大学）
参加者　808 名
3）第 59 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会
会　期　2022 年 1 月 22 日（土）
会　場　完全 WEB 開催
会　長　浦上達彦（日本大学病院）
参加者　2,583 名
4）第 95 回日本糖尿病学会中部地方会
会　期　2021 年 9 月 4 日（土）～5 日（日）
会　場　三重県総合文化センター，完全 WEB 開催
会　長　矢野　裕（三重大学医学部附属病院）
参加者　866 名
5）第 58 回日本糖尿病学会近畿地方会
会　期　2021 年 10 月 30 日（土）
会　場　国立京都国際会館
会　長　福井道明（京都府立医科大学）
参加者　2,030 名
6）第 59 回日本糖尿病学会中国・四国地方会
会　期　2021 年 10 月 22 日（金）～23 日（土）
会　場　岡山コンベンションセンター
会　長　金藤秀明（川崎医科大学）
参加者　941 名
7）第 59 回日本糖尿病学会九州地方会
会　期　2021 年 11 月 19 日（金）～20 日（土）
会　場　那覇市文化芸術劇場なはーと
会　長　前田士郎（琉球大学）
参加者　1,569 名

4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理，運営
本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管理し，財政負担を削減するために年次学術集会の運営に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行い効率的な運用に努めている．また，糖尿病学の進歩および各地方会においても準備状況を適宜報告して頂き学会事務局でまとめている．

5. 支部長会活動
2022 年 3 月 6 日に WEB 開催にて第 10 回支部長会が実施された．

6. 分科会活動
1）第 36 回日本糖尿病合併症学会（第 27 回日本糖尿病眼学会総会と併催）
会　期　2021 年 10 月 8 日（金）～9 日（土）
※現地開催・LIVE 配信
会　場　びわ湖大津プリンスホテル
会　長　前川　聡（滋賀医科大学）
参加者　1,349 名

7. 出版事業
1）会誌「糖尿病」第 64 巻 4 号，第 64 回年次学術集会抄録号～第 65 巻 3 号まで，13 回発行
会誌「Diabetology International」Volume 12・Number 2 – 4, Volume 13・Number 1，4 回発行
2）糖尿病患者向け指導書
①糖尿病食事療法のための食品交換表　第 7 版
増刷なし
②糖尿病治療の手びき　2020　改訂第 58 版
増刷なし

③糖尿病性腎症の食品交換表　第 3 版　　増刷なし
④糖尿病食事療法のための食品交換表 CD-ROM 版（ver.4）　増刷なし
⑤糖尿病性腎症の食品交換表 CD-ROM 版（ver.2）付き　増刷なし
⑥Food Exchange List　増刷なし
⑦糖尿病食事療法のための食品交換表　活用編　第 2 版　10,000 部発行
⑧カーボカウントの手びき　2,000 部発行

3）医師および医療スタッフ向け指導書
①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き　第 3 版　増刷なし
②糖尿病食事療法指導のてびき　第 2 版　増刷なし
③糖尿病療養指導の手びき　改訂第 5 版　増刷なし
④糖尿病治療ガイド 2020－2021　増刷なし
⑤糖尿病学用語集　第 3 版　増刷なし
⑥糖尿病遺伝子診断ガイド　第 2 版　増刷なし
⑦糖尿病専門医研修ガイドブック　改訂第 8 版　4,000 部発行
⑧小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン　700 部発行
⑨糖尿病診療ガイドライン　2019　増刷なし
⑩糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル　増刷なし
⑪医療者のためのカーボカウント指導テキスト　増刷なし
⑫高齢者糖尿病治療ガイド 2021　増刷なし
⑬高齢者糖尿病診療ガイドライン　2017　増刷なし
⑭小児・思春期 1 型糖尿病の診療ガイド　増刷なし
⑮糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント　増刷なし

8. 糖尿病週間

2021 年 11 月 8 日～14 日，第 57 回全国糖尿病週間の行事が一斉に行われた．テーマは「アドボカシー～偏見に NO ！～」.

9. 国際糖尿病連合会議など

1）IDF-WPR
Postal Ballot により 2021 年の General Assembly を 2022 年末に開催することとなった.

2）EASD　2021（9 月 27 日　～10 月 1 日，Virtual Meeting）Associations' Village に学会ブースを出展

3）第 9 回 East-West Forum が第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会において，事前収録による WEB 配信で開催された.

＜COVID-19 の影響により，以下は延期となった．＞
●2020 年 The 13th IDF-WPR Congress（Shanghai）（The 12th AASD Scientific Meeting と共同開催）※再延期※
●The 12th AASD Scientific Meeting（The 13th IDF-WPR Congress と同時開催）※再延期※
●日欧交換留学プログラム受賞者の選出
※2021 年度および 2022 年度の募集を延期※

10. 合同委員会など

1）糖尿病腎症合同委員会
2）膵臓移植中央調整委員会
3）糖尿病医療の情報化に関する合同委員会
4）糖尿病と癌に関する合同委員会
5）日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
6）日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
7）高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
8）日本循環器学会・日本糖尿病学会合同委員会
9）診療録直結型全国糖尿病データベース事業（J-DREAMS）合同委員会
10）日本糖尿病理学療法学会と日本糖尿病学会との実務担当者会議
11）日本肥満症治療学会・日本肥満学会・日本糖尿病学会 3 学会合同委員会

11. 普及・啓発・後援事業

1）日本糖尿病協会への協力
「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
2）世界糖尿病デーへの参加
「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
3）第 64 回春季日本歯周病学会学術大会　2021 年 5 月 21 日～6 月 22 日
4）第 55 回日本理学療法学術研修大会 2020in おおいた　2021 年 5 月 29，30 日
5）第 8 回日本糖尿病療養指導学術集会　2021 年 7 月 24，25 日
6）第 33 回日本循環器病予防セミナー　2021 年 7 月 31 日，8 月 1 日，8 月 21，22 日
7）栄養の日・栄養週間　2021 年 8 月 1 日～7 日
8）第 64 回秋季日本歯周病学会学術大会　2021 年 10 月 15，16 日
9）第 20 回日本先進糖尿病治療研究会・第 18 回 1 型糖尿病研究会　2021 年 11 月 6，7 日
10）令和 3 年度「食育健康サミット」　2021 年 12 月 16 日
11）第13回より良い特定健診・保健指導のためのス

キルアップ講座　　2022 年 1 月 23 日

●庶務報告

1. 総会

2021 年 6 月 20 日 Zoom の Webinar による Web で第 64 回定時社員総会を開催した．2020 年度事業報告，庶務報告，収支決算報告が承認され，また 2022 年度事業計画が承認された．第 67 回会長に金藤秀明学術評議員が選出・承認された．

2. 学術評議員会

2021 年 5 月 31 日～6 月 3 日に学会 HP の My Page 内の所定箇所からの投票により開催された．

3. 理事会

定例理事会は 2020 年 6 月 13 日（Zoom による Web 会議），12 月 6 日（於東京都文京区，一部の出席者は Zoom による Web 会議），臨時理事会は 2021 年 3 月 14 日（Zoom による Web 会議）の合計 3 回開催された．

●会員状況報告（2022 年 3 月 31 日現在）

1. 役員等

1）役員

理　事　　20 名（2020 年度末　20 名）

監　事　　2 名（2020 年度末　2 名）

2）学術評議員　735 名（2020 年度末　738 名，3 名減）

2. 会員等

1）名誉会員　37 名（2020 年度末　38 名，1 名減）

2）正会員

2021 年 3 月末日会員数	17,552 名	
2021 年度新入会	473 名	
名誉会員へ	−1 名	
退会	−546 名	退会内訳
		希望退会　330 名
		会費未納による資格喪失　187 名
		物故者　29 名
正会員　現在数	17,478 名（74 名減）	

3）賛助会員

2021 年 3 月末日会員数	32 名
2021 年度新入会	+3 名
賛助会員　現在数	35 名（3 名増）

3. 物故会員

名誉会員　清野　進　堀野正治

功労評議員　泉寛治

学術評議員　稲垣朱実　佐々木秀行

会員　石津汪　長田清彦　嘉瀬正仁　木川田典彌　北村勲　久保次郎　黒野保三　境研二　坂田早苗　佐藤豪　佐藤広規　澤野眞二　神出毅一郎　須藤祐司　田畑潔　鶴岡明　西村豊　二宮裕　野本浩一　原瀬忠広　平岩堅太郎　馬杉治郎　丸山俊之　百崎末雄　山岡正弥　鷲田亜佐男

（敬称略，連絡のあった方のみ）

2. 委員会報告および各種報告

〈出版に関する報告〉

1.「糖尿病」編集委員会　　委員長　大澤春彦

1）今年度の委員会：22 回（メール審議）

2）委員長は今年度理事改選で理事を退任した大澤春彦委員長の継続を植木理事長が任命した．

3）論文投稿状況および採択率

投稿数	原著	症例報告	短報	委員会報告
68	29	34	2	3

採択	否	採択率
39	24	62%（前年 77%）

4）出版状況は，第 64 巻 4 号から第 65 巻 3 号までの 12 誌と Supplement（第 64 回年次学術集会抄録集）を刊行し J-STAGE に掲載された．第 64 回年次学術集会がオンライン開催であったため，今年度の抄録集も昨年同様，冊子の作成はしなかった．論文の他に以下，受賞講演原稿，委員会報告，地方会演題抄録を掲載した．

受賞講演・会長講演			Volume Number
ハーゲドーン賞	植木浩二郎	インスリン作用の障害による2型糖尿病の発症機構の分子メカニズム解明とそれに基づく治療法の開発	65-1
リリー賞	粟澤元晴	肝臓を中心とした臓器間クロストークによる代謝制御機構の解明	65-1
リリー賞	白川　純	ヒトの膵β細胞量増大による糖尿病治療を目指した基礎的研究	65-1
女性研究者賞	中司敦子	糖尿病合併症におけるバスピンの作用と新たな病態解明	65-1
会長講演	戸邉一之	第 64 回年次学術集会会長 日々の診療での気付きから新しい糖尿病学を切り拓く	65-1

委員会報告	Volume Number
［インスリン抵抗症の疾患分類と診断基準に関するワーキンググループ］ インスリン抵抗症の疾患分類と診断基準に関するワーキンググループ報告	64-11
［日本人の肥満２型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する３学会合同委員会］ 日本人の肥満２型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント	65-3

5）特集を来年度掲載に向け企画している．

2.「Diabetology International」編集委員会

委員長　羽田勝計

1）委員会開催状況　1回（2021年8月8日 Zoom による WEB 開催）

2）論文投稿状況及び採択率

2022年3月31日現在

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
Total Submitted	95	118	184	208	52
Monthly average	7.9	9.8	15.3	17.3	17.3
Total Decisions	**97**	**107**	**164**	**209**	**42**
（Accept）	41	32	52	72	14
（Reject）	56 (Transfer 1件)	75	112 (Transfer 1件)	137 (Transfer 1件)	28
Acceptance Rate	42%	30%	32%	34%	33%

3）出版状況

2021年 Vol.12-1～4，2022年 Vol.13-1 までを予定通り刊行した．年4回（1・4・7・10月）季刊発行をしている．

4）委員会報告掲載状況

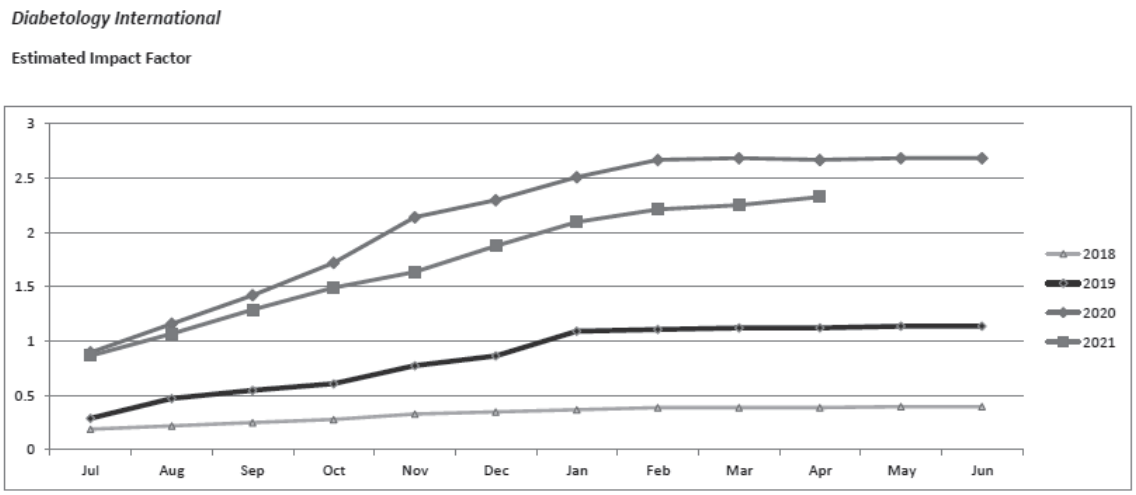
Title	Volume & Issue
Diagnosis, prevention, and treatment of cardiovascular diseases in people with type 2 diabetes and prediabetes：a consensus statement jointly from the Japanese Circulation Society and the Japan Diabetes Society	Vol.12-1
A large-scale observational study to investigate the current status of diabetic complications and their prevention in Japan（JDCP study 6）：baseline dental and oral findings	Vol.12-1
Metabolic surgery in treatment of obese Japanese patients with type 2 diabetes：a joint consensus statement from the Japanese Society for Treatment of Obesity, the Japan Diabetes Society, and the Japan Society for the Study of Obesity	Vol.13-1

5）依頼論文

Name（Award）	Title	Article Type	Volume & Issue
R. Kushi, Y. Hirota, W. Ogawa	Insulin resistance and exaggerated insulin sensitivity triggered by single-gene mutations in the insulin signaling pathway	Commentary	Vol.12-1
T. Matsuzaka（2020年リリー賞受賞論文）	Role of fatty acid elongase Elovl6 in the regulation of energy metabolism and pathophysiological significance in diabetes	Review	Vol.12-1
S. Fujisaka（2020年リリー賞受賞論文）	The role of adipose tissue M1/M2 macrophages in type 2 diabetes mellitus	Review	Vol.12-1
M. Awazawa（2021年リリー賞受賞論文）	Exploring regulatory network of metabolism through liver research	Review	Vol.12-4
J. Shirakawa（2021年リリー賞受賞論文）	Translational research on human pancreatic β-cell mass expansion for the treatment of diabetes	Review	Vol.12-4
H. Tsuchida, Y. Morita, M. Nogami, W. Ogawa	Metformin action in the gut—insight provided by［18F］FDG PET imaging	Commentary	Vol.13-1

6）IF 取得に向けての取り組み

DI の認知度を上げる策として，最新論文やテーマ別の論文を月次メールマガジンで紹介している．また，2020年から特集号の掲載も開始した．IF 付与の基準値は年々増加傾向にあり，同分野で新たに申請するには，仮数値で IF 4.0 以上がないと難しい．IF 付与を目標とし今後も対策を継続する（図）．



Year	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
2018	0.188	0.218	0.248	0.277	0.327	0.347	0.366	0.386	0.386	0.386	0.396	0.396
2019	0.288	0.470	0.545	0.606	0.773	0.864	1.091	1.106	1.121	1.121	1.136	1.136
2020	0.895	1.158	1.421	1.719	2.140	2.298	2.509	2.667	2.684	2.667	2.684	2.684
2021	0.865	1.067	1.288	1.490	1.635	1.875	2.096	2.212	2.250	2.327		

図

7）「DI Best Impact Award」設立について

優れた論文を呼び込み国際誌として発展させるため，「DI Best Impact Award」の設立が承認され，DI担当理事および英文誌編集委員で構成される選考委員会の審査を経て，第1回受賞論文を下記のとおり決定した．

［Original Article］Sakaguchi, K., Takeda, K., Maeda, M. et al. Glucose area under the curve during oral glucose tolerance test as an index of glucose intolerance. Diabetol Int 7, 53–58（2016）．2021年第64回日本糖尿病学会年次学術集会に於いて第1回表彰式を開催した．

第2回受賞論文は，第65回日本糖尿病学会年次学術集会に於いて表彰を予定している．

8）DI：Editorial Manager業務の外部委託について

「Diabetology International（DI）」における論文投稿・査読システム「Editorial Manager」業務（定型業務）について，杏林舎に外部委託することとした．契約期間は1年とし，継続に関しては毎年評価を行う予定である．

3.「食品交換表」編集委員会　　委員長　綿田裕孝

1）委員会開催（2回）：2021年5月13日，9月3日

2）［公益財団法人 味の素ファンデーション］より，「食品交換表」ベトナム語版作成についての打診があり，作成については許可を出し，完成次第送付頂く旨依頼をしている（2022年3月頃完成予定の旨を受けていたが，現時点では連絡待ちの状態である）

3）「食品交換表 第8版」の発行に向けて，「日本食品標準成分表2020年版（八訂）」（文部科学省）に基づき改訂を行うよう作業を開始した

（ア）現時点での改訂方針について5月23日の定例理事会に提出し，意見を収集した

（イ）寄せられた意見を受け，本委員会としては［食事療法に関する委員会］に「食品交換表第8版」の位置付け・改訂方針の検討を頂きたい旨を理事会に上申した

（ウ）今後は上記［食事療法に関する委員会］での決定を受けた後に改訂作業を再開する予定としている

4）出版事業 売上・発行状況（2021年4月～2022年3月）

部数	売上部数	（累計売上部数）	増刷部数	（累計発行部数）	刊行日
食品交換表 第7版	62,834	（937,069）	0	（990,000）	2013年11月1日
食品交換表活用編 第2版	3,064	（38,373）	10,000	（50,000）	2015年1月15日
糖尿病腎症の食品交換表 第3版	2,338	（26,475）	0	（35,000）	2016年6月1日
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	976	（15,252）	0	（20,000）	2017年4月11日
カーボカウントの手びき	963	（15,308）	2,000	（22,000）	2017年4月11日

5）引用許可願いの審査状況（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

	申請	審査中	許可		取下	
			無条件	条件付	審査前	審査中
食品交換表 第 7 版	18		6	10	2	
食品交換表活用編 第 2 版	3		1	2		
糖尿病腎症の食品交換表 第 3 版						
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	5		3	2		
カーボカウントの手びき						

4.「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長　前川　聡

1）今年度は委員会を開催しなかった

2）「糖尿病治療の手びき 2020 改訂第 58 版」（2020 年 5 月 30 日発行）の 2022 年 3 月末時点での売上部数は 21,434 部（内 電子書籍分：114 部）である

5. 小児糖尿病委員会　　委員長　浦上達彦

1）委員会の開催：1 回（2021 年 11 月 14 日）

2）日本小児内分泌学会との共著として，小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン　改訂第2版（南江堂）を作成している．現在進行中である．

3）日本小児内分泌学会糖代謝委員会と協力して，1 型糖尿病（インスリン治療を必要とする）幼児の幼稚園・保育施設への入園取り組みガイドに続き，学校への入学取り組みガイド作成を予定している．

6.「糖尿病治療ガイド」編集委員会

委員長　綿田裕孝

1）委員会開催：3 回（2021 年 4 月 2 日，8 月 18 日，2022 年 1 月 16 日）

※糖尿病治療のエッセンス改訂 WG：1 回（2022 年 3 月 5 日）

2）「糖尿病治療ガイド 2022-2023」は 2022 年 4 月に発行予定である

3）植木理事長からの指示を受け，「糖尿病治療のエッセンス」の改訂作業を本委員会の委員（除，日本医師会からの推薦委員）をワーキンググループとして行った

①「糖尿病治療ガイド 2022-2023」と齟齬無く実践的な内容となるようにする改定案を作成した

4）「糖尿病治療ガイド 2020-2021」を 2020 年 4 月 30 日に発行し，2022 年 3 月末時点での売上部数は 93,150 部である

7.「糖尿病学用語集」編集委員会

委員長　藤本新平

1）今年度は委員会を開催しなかった

①必要な事項について，適宜メール審議による検討を行っている

2）収載用語の検討について

①「日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント」が発行されたことを受け，以下を「糖尿病学用語集」に追加した

［metabolic　surgery：メタボリックサージェリー，代謝改善手術，減量・代謝改善手術］

②「iCGM/isCGM」の取り扱いについて以下の通り決定し，学会 HP にも掲載し周知した（学会からのお知らせ：2021 年 12 月 14 日）

-1　“iCGM” は他用語の略称としても使用されるようになったため，“intermittently scanned continuous glucose monitoring” の略称を “iCGM” から “isCGM” に変更する

-2　他用語の略称との混同を避けるため，“intermittently viewed continuous glucose monitoring” の略称 “iCGM” は廃止する

3）ICD-11 用語の和訳確認について

① 2021 年 4 月に厚生労働省 国際分類情報管理室からの依頼を受け，5 月に本学会 ICD-11 委員：安田和基 学術評議員と共に内容確認のための打合せに出席した

（前回は 2019 年に日本医学会を経由して依頼を受け，本委員会にて対応している）

②厚生労働省からの依頼に応じて，当学会が和訳を担当する用語の範囲を確定した

-1　用語のうち妊娠関連・タイトルに該当する用語については 6 月に当学会案を提出した

-2　その他の用語については 12 月に当学会案を提出した

4）「優性遺伝，劣性遺伝」「顕性遺伝，潜性遺伝」について

①日本医学会より「優性遺伝」「劣性遺伝」の推

奨用語をそれぞれ「顕性遺伝」「潜性遺伝」とすることに対する分科会宛承認依頼（2021 年 8 月）があり，理事会にも確認のうえ承認する旨を回答した

② 2022 年 1 月に上記について決定とした旨の結果報告が日本医学会よりあり，本学会 HP に掲載し周知した（学会からのお知らせ：2022 年 2 月 8 日）

5）引き続き「糖尿病学用語集」オンライン版では，「My Page」を活用し学会員からのご意見・ご提案を随時受け付ける窓口を設けており，投稿されたものについては委員会で審議し対応を検討する

①昨年度に受け付けた 2 件については，委員会でのメール審議を経て「正常型」「境界型」「糖尿病型」および「異常ヘモグロビン」を追加することを決定し，2021 年 12 月に「糖尿病学用語集」Web サイトに反映した

8.「糖尿病専門医研修ガイドブック」作成委員会　委員長　金藤秀明

1）今年度は委員会を開催していない．

2）2021 年 3 月 14 日の臨時理事会において，谷澤幸生前委員長の後任委員長として金藤秀明委員が就任した．

3）次改訂第 9 版の出版時期を 2023 年 5 月発行（改訂周期：3 年）に向け，来年度より新体制での着手に向け準備を進めている．編集委員，執筆者，査読者の候補の先生はほぼ確定している．

4）改訂 8 版を 2020 年 11 月に発行し，2022 年 3 月末時点で売上部数は 1,467 部であった．

9.「内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医研修ガイドブック」作成委員会　委員長　金藤秀明

1）日本内分泌学会および日本糖尿病学会からの作成委員で 2022 年 1 月～3 月に毎月委員会を開催した．

2）初版の出版時期は遅くとも 2023 年春の出版に向け，新体制での着手に向け準備を進めている．ガイドブックの内容・項目，執筆者，査読者の候補の先生はほぼ確定している．

10.「糖尿病診療ガイドライン 2024」策定に関する委員会　委員長　谷澤幸生

1）委員会開催［統括委員会：1 回（2021 年 4 月 11 日），策定委員会：1 回（同 8 月 19 日）］

①本学会の関わる他ガイドラインとの整合性を取るため「高齢者糖尿病診療ガイドライン」「小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン」の作成にかかる先生方との協議会をそれぞれ開催（同 5 月 20 日，5 月 30 日）

②8 月 15 日には第 1 回策定委員会の事前打合せとして，9 月 4 日には今回のガイドラインにおける推奨グレードの検討のため，策定・評価両委員長および両委員長補佐，加えてシステマティックレビュー（SR）サポートチームのリーダー・サブリーダーによるコアメンバー会議を開催した

2）統括委員会・策定委員会では，今回のガイドライン策定にあたってのレクチャーを後藤　温 SR サポートチーム サブリーダー（臨床疫学専門家）・林野 泰明 SR サポートチーム リーダー・能登 洋 評価委員長補佐により実施頂いた

3）2021 年 10 月に出版社：南江堂より策定要綱を策定委員に送付し，CQ（クリニカルクエスチョン）・Q（クエスチョン）の検討/PICO の抽出を行った

①その後，CQ・Q/PICO について評価委員による評価を行い，現在は評価結果を受けて策定委員による CQ・Q の再検討を実施中である

4）「糖尿病診療ガイドライン 2019」の売上部数は 8,801 部（内 電子書籍分：190 部）である（2022 年 3 月末時点）

〈学術調査研究・教育に関する報告〉

11. 2022 年度（令和 4 年度）坂口賞および学会賞に関する報告　理事　綿田裕孝

1）坂口賞は，門脇孝会員，故清野進氏，故横野浩一氏に授与する．

2）学会賞審査委員会（稲垣暢也委員長）を 2022 年 1 月 15 日，4 月 3 日に開催し，各受賞者を選出した．

（1）ハーゲドーン賞
谷澤幸生（国立大学法人山口大学）
「糖尿病における β 細胞不全の分子メカニズムに関する研究：From A Rare Disease to the Common Pathway」

（2）リリー賞
ⅰ）酒井真志人（日本医科大学）
「シグナル依存性の転写調節による糖尿病の肝病態の制御機構に関する研究」
ⅱ）土屋恭一郎（山梨大学医学部附属病院）
「インスリン作用から紐解く糖尿病合併症の分子機構」

（3）女性研究者賞
高橋倫子（北里大学）

「生物物理学的手法を用いたインスリン開口放出機構の解明」

12. 学術調査研究・教育委員会　委員長　荒木栄一

本年度の学術調査研究の新規申請について7月21日にHPで告知し，8月2日～9月6日の受付期間で募集した．10月2日に委員会を開催し，3件の申請について検討した．また，同日の委員会において，1）医療スタッフ賞規定の変更，2）2025年度以降の女性研究者賞，3）2022年度の各審査委員会の委員等，および，4）学術調査研究の新規申請の募集告知文への追記についてそれぞれ検討した．女性研究者賞についてはサノフィ株式会社との合意により，5年間延長し，第10回まで実施することとなった．

サノフィ株式会社の寄附金により新規に制定された，キャリアデベロップメント報奨金について7月21日にHPで告知し，8月2日～9月6日の受付期間で募集した．10月3日に開催した審査委員会で選考を実施し，理事会の承認を得て，10月18日にHPで3名の受賞者を公表した．

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長　池上博司

1）2021年6月30日より施行される「医学系研究倫理指針の統合と新倫理指針の施行について」を2021年6月24日にHPに掲載し，会員に周知した．

2）下記の3件について審議し，承認した．
- ・COVID-19に関連する1型糖尿病に関する疫学調査
- ・抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査
- ・アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究

3）2022年2月28日にZoomによるWeb開催により委員会を開催した．

冒頭新委員の紹介が行われ，繪本委員が副委員長に就任することとなった．新倫理指針，一括審査への今後の対応のため，委員に依頼して，まずは東京大学および京都大学の実例を把握することとした．また，現行の申請書の改定について検討し，一部を改定することとした．

下記の2件の変更申請について審議し，承認した．
- ・「1型糖尿病関連遺伝子群の多施設共同研究」
- ・「我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究」

14. 年次学術集会運営委員会　委員長　荒木栄一

12月26日に委員会を開催した．

植木浩二郎会長の下で開催される第67回年次学術集会について，候補会場および開催候補日とされている3案について，それぞれの問題点等について検討し，第1案での開催を承認するが，最終的な判断は植木会長に委ねることとした．

第65回年次学術集会は小川渉会長のもと神戸にて2022年5月12日（木）～14（土）の会期で，第66回年次学術集会は西尾善彦会長のもと鹿児島にて2023年5月11日（木）～13（土）の会期での開催を予定している．

15.「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長　荒木栄一

4月19日に委員会を開催した．第55回「糖尿病学の進歩」の開催報告を齋藤重幸世話人が行い，第56回の準備状況について大澤春彦世話人がプログラム等の概要，会場の使用計画および予算案について報告した．第56回の会期である2022年2月25日（金）-26日（土）が国公立大学の入学試験日と重なることから，演者の選任を早めに実施することなどを大澤世話人に検討いただくこととした．

16. 食事療法に関する委員会　委員長　寺内康夫

1）委員会開催：1回（2022年1月16日）
次回2022年4月1日に委員会開催を予定している

2）2021年11月28日の定例理事会で宇都宮前委員長から委員長を交代した
①委員についても新たに選任し新体制での活動を開始した

3）喫緊の課題として「食品交換表 第8版」の改訂方針に関する検討する予定である

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会　委員長　西尾善彦

本年度は本委員会で検討すべき提案はなく，開催されなかった．昨年度に検討を行った特定健診や人間ドックでのHbA1c値と病院受診時のHbA1c値が乖離する問題についてはその検討の内容を雑誌糖尿病に投稿し，委員会報告として糖尿病64（5）：336-339, 2021に掲載された．また，糖尿病学会ならびに日本臨床検査医学会，日本臨床化学会ホームページ上に3学会連名で：『遠心処理後に測定するHbA1c測定法での採血管の取扱い（EDTA入り採血管推奨）について』として同委員会報告の要旨を掲載した．

18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会　　委員長　中村二郎

委員：吉岡成人，片桐秀樹，植木浩二郎，山内敏正，稲垣暢也，谷澤幸生，荒木栄一，中山健夫，神谷英紀

2022 年 3 月 31 日で症例登録が締め切られ，データ解析の後，雑誌「糖尿病」などに委員会報告として投稿する予定である．

19. 1 型糖尿病の成因，病態に関する調査研究委員会　　委員長　池上博司

1）免疫チェックポイント阻害薬・劇症 1 型糖尿病関連課題（担当副委員長：今川彰久）

「抗ヒト PD-1/PD-L1 抗体投与後に発症する 1 型糖尿病に関する疫学調査」は 2021 年度末までに 114 例（中間報告では 22 例）が集積された．検討結果の一部は第 64 回年次学術集会で発表した．現在投稿準備中である．

2）膵島関連自己抗体測定法関連課題（担当副委員長島田朗）

GAD 抗体（EIA，RIA）の親和性と HLA，力価などとの関係について，現在，論文作成中である．GAD 抗体・IA-2 抗体・ZnT8 抗体のスクリーニング検査（3 Screen Islet Cell Autoantibody ELISA Kit）が日本市場に出るにあたり，当局より 1 型糖尿病の診断基準との整合性をとるよう指摘があり，緩徐進行 1 型糖尿病（また一部急性発症 1 型糖尿病）の診断基準の変更について議論がなされた．今後，TIDE-J のサンプルによる検討を含め，本委員会にて慎重に議論の上，進めていくことが確認された．IA-2 抗体，ZnT8 抗体についてのエビデンスについてもあわせて調査した上で，後日あらためて議論することとした．

20. 単一遺伝子異常による糖尿病の成因，診断，治療に関する調査研究　　委員長　稲垣暢也

1）本委員会では，糖尿病診断時年齢 35 歳未満で，1 型糖尿病関連自己抗体陰性の症例，およびその罹患血縁者につき，全国の学会員所属医療機関からの症例募集を行っている．

2022 年 3 月末までに，138 例に関してゲノム DNA 検体と臨床情報が研究班に送付されており，うち 2021 年 4 月～2022 年 3 月に送付された症例は 80 例（前期 6 ヶ月で 44 例，後期 6 ヶ月で 36 例）であり，順調な症例集積が行われている．

2）単一遺伝子異常による糖尿病の原因遺伝子（*HNF4A*，*GCK*，*HNF1A*，*PDX1*，*HNF1B*，*NEUROD1*，*INS*，*ABCC8*，*KCNJ11*，*WFS1*，*INSR* 遺伝子）につき，次世代シーケンサーによる解析にて変異の検出に十分なカバレッジレベルを得られる系を 2020 年度までに確立している．これを用い，2022 年 3 月末までに，前述の 138 例のうち 122 例の解析を行い，症例の解析依頼者への解析結果の報告を行った．

3）がん遺伝子パネル検査の推進に伴い，二次的所見として見出されうる *HNF1A*（MODY3）遺伝子変異の取り扱いにつき，糖尿病専門医の関与が不可欠と考え，委員会において「がん遺伝子パネル検査において二次的所見として見出された *HNF1A*（MODY3）遺伝子変異（病的バリアント）の扱いに関する情報提供」と題した文書を作成した．

本文書の日本糖尿病学会 web サイトにおける公表が 2022 年 3 月の理事会において承認され，がん遺伝子パネル検査における糖尿病専門医の役割に関する情報提供が実現することとなった．（なお，実際の公表は 2022 年 4 月 1 日付けとなった．）

21. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会　　委員長　松久宗英

1）今年度は委員会を 2 回開催した．（2021 年 7 月 18 日，2022 年 3 月 19 日）

2）研究協力者として，後藤温会員，黒田暁生会員を追加することとした．

3）2020 年 12 月 16 日に学術調査研究等倫理審査委員会に倫理審査申請書を提出し，リアルワールド実態調査・J-DREAMS 前向き調査（以下，リアルワールド調査）は 2021 年 2 月 1 日に承認され，2 型糖尿病の重症低血糖高リスク患者での CGM を用いた無自覚性低血糖実態調査（以下，CGM 調査）は，指摘事項があったため再提出をし，2021 年 5 月 14 日に承認された．

4）リアルワールド実態調査は，先行して JMDC データの解析を行い，最近では重症低血糖の発症頻度が低下する現象を認め，今後 1 型と 2 型に分けた解析を進めていくこととし，次年度以降に NDB のデータ解析へ展開していくこととした．

5）J-DREAMS 前向き調査は，治療内容を中心とした詳細な横断観察研究を実施していくとともに J-DREAMS データを用いた研究として，今後に繋がるような解析を進めていくこととした．

6）CGM 調査は，日本糖尿病学会の教育認定施設への参加依頼アンケートを実施し，参加施設及び症例巣を確定した．今後は，電子症例登録システムの構築・テスト運用および施設参加施設での倫

理審査を進め，2022 年度に調査を実施する．

22. 膵・膵島移植に関する常置委員会

委員長　稲垣暢也

1）委員会開催状況：今年度は開催をしていない．

2）膵臓単独移植と膵島移植が自立支援医療（更生医療）の適応ではないため，月額 8 万～10 万円の医療費が患者負担となっている．一方，腎移植をはじめ他の移植（膵腎，腎移植後膵臓含む）は適応されるため月額 1 万円程度と格差が著明であることから，移植学会と膵・膵島移植研究会から厚労省に膵臓単独移植と膵島移植が自立支援医療（更生医療）の適応になるよう要望書を提出していた．最近になり，厚労省から膵臓単独移植の待機患者のデータを至急提出してほしいとのリクエストがあり，データを準備して提出した．

3）膵臓移植の実施施設の認定基準の見直しを検討しており，それに伴いブロック別と施設別の申請数およびブロック別の移植実施数と施設別の移植予後を膵臓移植中央調整委員会と連携して調査する予定になっている．

4）膵島移植の機会において移植に利用できない膵島が発生した場合，研究へ転用するシステムの構築を推進している．日本組織移植学会，日本膵・膵島移植学会と本学会に所属する委員から構成される研究用膵島供給事務局を本学会事務局内に立ち上げ，第 1 回 Web 会議を 2022 年 1 月 5 日に開催した．

23. インクレチン薬治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究調査委員会

委員長　八木橋操六

前年度に引き続きインクレチン治療を受けた日本人 2 型糖尿病剖検例の膵外分泌病理変化について検索を行った．全国 16 施設より提供された非糖尿病（NDM）30 例，糖尿病（DM）33 例，インクレチン製剤使用糖尿病（DM＋I）58 例の膵について検討した．DM＋I 群は DPP4 阻害薬 55 例，GLP1 作動薬 3 例であった．3 群間の平均年齢，BMI に有意差はなく，糖尿病平均罹病期間も DM 群，DM＋I 群間で差はなかった．DM＋I 群でのインクレチン使用期間は平均で約 20 カ月であった．膵癌を除く悪性腫瘍による死亡（担癌死）は非糖尿病で 33%，DM 群 24%，DM＋I 群 44%と DM＋I 群で有意に高かった．病理専門医 3 名による膵評価では膵導管内乳頭状粘液産生腫瘍（IPMN）病変は NDM 群 3.3%，DM 群 12.1%，DM＋I 群 8.5%認められ，ND 群に比し DM 群で増加していたが，DM 群，DM＋I 群間で有意な差はなかった．前癌病変とされる導管異型上皮変化である PanIN（すべて low　grade）については NDM 群 43%，DM 群 42%，DM＋I 群 55%と DM＋I 群で増加傾向をみたが，各群間で有意差を認めなかった．そのほか小葉間線維化が DM＋I 群で NDM 群に比して高頻度であった．腺房壊死，出血，好中球浸潤など活動的な炎症について各群間で差は見られなかった．D＋I 群で担癌死が多い理由は明らかではないが，検索症例の多くが担癌症例の多い大規模病院由来による可能性も否定できない．今後，臨床所見と病理所見の対比を加えて検討する予定である．以上，これまでのインクレチン治療症例での膵内分泌・外分泌組織病理所見を本調査委員会報告として糖尿病および関連学術雑誌に投稿し，本委員会の活動を終了する予定である．

24. 2 型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討（J-DOIT3）

委員長　門脇　孝

2016 年 4 月に開始となった J-DOIT3 追跡研究は，2021 年 6 月までが 5 年目の定期調査期間にあたり，引き続きデータの収集などを継続した．この追跡研究は当初の予定通り，5 年目までの追跡 1 期の解析結果を公表する方針であり，今年度に入りデータの固定に向けた作業を加速させてきた．2022 年 4 月 7 日時点で，1-4 年目の定期調査については 99% 以上の症例でデータが固定できており，5 年目の定期調査についても 98% 以上まで固定が進んでいる．

主要・副次評価項目に関しては，冠動脈イベント 156 件，脳血管イベント 49 件，下肢血管イベント 30 件，腎症イベント 1277 件，網膜症イベント 380 件が報告されている．こちらについてもデータの固定を進め，2021 年度 3 月開催のエンドポイント判定委員会（大血管，腎症，網膜症）において，1 件ずつ判定を受けた．

これらに加えて死亡も主要評価項目に含まれているが，5 年目調査期間の生死に関する情報が，93 例において不明であった．そこでこれらの症例について，各参加施設に依頼して住民票照会を含めた生存確認を進め，本年 4 月時点でうち 61 例について，生死を確認することができた．現在 79 件の死亡が報告されており，2022 年 4 月末までを目安に，全てのデータの固定を完了させる方針である．

一方で介入研究のサブ解析も進めた．本介入試験においては，血糖・血圧・脂質に対する統合的な治療を行なったが，これらの治療目標の達成状況との関連の解析を行なった．HbA1c・血圧・LDL- コレステロール・HDL- コレステロールの 4 つの危険因

子の updated mean に着目し，いずれも従来療法群の目標を達成している場合，そうでない場合に比べて，主要評価項目のリスクが51%低下することが明らかとなった．その内訳としては，脳血管イベントへの明らかな効果は見られなかったものの，冠動脈イベントのリスクが64%，総死亡のリスクが50%，それぞれ有意に低下していた．すなわち複数の危険因子に対する統合的な治療を行ない，かつ良好なコントロールを続けることの重要性が改めて示されたものと考えられる．

更に追跡研究を10年目まで継続することについては，昨年3月に研究計画書を改訂したが，これをうけてEDCの改修を進め，本年1月にリリースを行なった．これにより現在では，6年目以降10年目までの追跡2期のデータ収集が可能となっており，既に6年目調査（本年1月から6月まで）のデータも入力が進んでいる．追跡2期への参加意思については，各施設の倫理委員会の指示・見解に従って適切に確認するよう周知しており，改修したEDCにおいても確認日の入力を必須とした．またこの際の改訂では，主要心血管イベント（MACE），認知・生活機能，肺炎による入院などに関する評価を追加しており，2型糖尿病に対する強化療法の効果を，より多面的に評価できることが期待される．このような研究計画書の改訂は，中央倫理委員会，並びに運営委員会の承認を受けて行なうが，両委員会には日本糖尿病学会からの代表が少なくとも1名含まれ，学会によるガバナンスが担保された体制となっている．

25. 我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究

委員長　島田　朗

1）委員会開催（web）：2回（2021年6月26日，11月13日）

2）NDB班，レジストリ班，適正治療検討班の3つの班において，調査を行っているが，コロナ禍の影響により，研究開始が遅れたことから，延長申請の予定である．

［NDB班］現状は，2019年のデータ使用について，厚労省より許可を得たが，実際に利用できるまで待機している段階である．このため，2018年までのデータを使用して解析を行った．

［レジストリ班］登録が，2021年9月より開始され，2022年1月現在の登録者数は約3,064人，参加施設数は67施設である．一施設の登録上限の目安は100人程度としているが，IRBの承認状況を考慮し，1年延長の方針であり，計画書を変更し，学会における倫理審査において，変更承認を得た．

［適正治療検討班］J-DREAMSの解析がなされ，病型ごとの頻度，インスリン投与方法の現状，合併症（急性，慢性）の状況などについて検討された．今後，経口薬の使用状況，HbA1cの良否に関わる因子，合併症をきたす背景などを中心に進めていく．

26. 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究委員会　委員長　羽田勝計

本研究課題は，厚生労働省科学研究課題として2016～2018年度に採択され，研究継続するために，糖尿病学会学術研究として2019年に申請した．本委員会は2020年8月に学術調査研究・教育委員会により申請が承認されて発足した．コロナ禍の中であり委員の対面での集合が困難であることから，委員会は開催されていない．ただし，2020年11月17日には一度Web会議を開催した．

前厚労科研での「糖尿病網膜症と下肢病変に対する実態調査」については，“Clinical Practice of Diabetic foot, Nephropathy, and Retinopathy in Japan：Cross-sectional study using Local and Nationwide Questionnaire Surveys.”として日本糖尿病学会の英文誌 *Diabetology International* 誌に受理され2021年11月26日にpublished　onlineとなった．

委員会で継続研究となった「糖尿病網膜症の重症化および足病変の多施設前向き大規模コホート研究」では追加の解析を行い，10月に大津で開催される第36回日本糖尿病合併症学会の日本糖尿病眼学会との「合同シンポジウム」の中で報告した．内容としては，下記のことが示唆された．1）網膜症のない（NDR）患者における増悪因子はインスリン治療（HR1.67），罹病歴（HR1.19）などであった．2）非増殖網膜症（NDR＋SDR）の悪化因子は上記の他に腎症病期が挙げられるが，尿中アルブミン排泄のカテゴリー（HR1.368）に依存している．3）下肢病変の増悪因子は年齢，現在の喫煙，過去の飲酒，糖尿病網膜症，糖尿病腎症であった．

27. インスリン抵抗症の疾患分類と診断基準策定のためのWG　リーダー　小川　渉

今年度は委員会を開催しなかった．

疾患分類と診断基準を活動報告としてまとめ，「糖尿病」に投稿し2021年11月30日に発行された．英文版は2022年2月1日に「DI」と日本内分泌学会

誌「Endocrine Journal」に同時にオンライン掲載された．また，インスリン抵抗症のレジストリを作成する研究（レジストリ作成を通じた糖尿病をきたす希少疾患の治療標準化）を，学会の学術研究に申請した．ソマゾン欠品に関し，小児内分泌学会と販売会社への申し入れについて協議する予定であったが，2022 年 4 月時点で欠品が解消されたため，見合わせている．

〈学会認定事業に関する報告〉

28. 専門医認定委員会　　委員長　中村二郎

2021 年度は 5 月から 9 月にかけて 3 回 WEB による委員会を開催し，11 月 21 日に事務局会議室にて第 32 回糖尿病専門医試験に関する合否判定を行った．

第 32 回糖尿病専門医試験は 2021 年 10 月 24 日（日）にパシフィコ横浜で実施した．書類審査が必要な申請者 350 名のうち 4 名が不合格となった．2020 年度受験見送り措置希望者 51 名から申請があり合計は 397 名（内科 377 名，小児科 5 名，小児科特例 15 名）であった．

受験者 349 名（内科 331 名 小児科 5 名，小児科特例 13 名），当日欠席を含む受験辞退者は 48 名（内科 47 名　小児科 0 名，小児科特例 1 名）であった．合格者は 254 名（内科 240 名，小児科 5 名，小児科特例 9 名）で，受験者全体から算出した合格率は 73% であった．

そのほか，研修指導医 112 名（随時申請 23 名含む），認定教育施設（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）19 施設，教育関連施設 6 施設，連携教育施設 4 施設が新規認定された．

各種更新認定の書類審査を行い，専門医 1,051 名，研修指導医 735 名，認定教育施設（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）155 施設，教育関連施設 11 施設，連携教育施設（小児科）4 施設がそれぞれ更新された．

常勤の研修指導医が在籍している施設が外来で糖尿病妊婦の症例を経験することができるにも関わらず認定教育施設Ⅱとして申請する場合がある．単一の認定教育施設Ⅱのみで 3 年間糖尿病専門研修を行っても受験資格は認められないため，他の教育施設と連携を組む必要があることをより明確にするため規則改訂を行った．

教育施設から報告いただく「教育施設年間報告」をシステムから登録する方法に変更を行った．

専門医更新申請時に提出する症例報告（外来）20 症例と糖尿病患者教育に関する資料を紙媒体の提出から電子申請できるシステムを構築することが再確認され，引き続き検討することとなった．

新専門医制度については，日本専門医機構が内分泌代謝・糖尿病内科領域（連動研修領域）と糖尿病内科領域（補完研修領域）の整備基準ならびに研修カリキュラムの審査を行い，2022 年 2 月に審査結果が示された．内分泌代謝・糖尿病内科領域は「仮承認」として 2022 年 4 月から承認された．糖尿病内科領域は「審査保留」とし，2023 年 4 月に開始予定として引き続き審査を継続することとなった．

なお，整備基準と研修カリキュラムの作成に際しては内分泌代謝・糖尿病内科領域では糖尿病学会から幹事 4 名と内分泌学会 4 名を選出し合同のタスクフォースで検討会を 3 回（WEB）開催し作成作業を行った．糖尿病内科領域は幹事 6 名のタスクフォースで検討会を 2 回（WEB）開催した．

29. 専門医試験委員会　　委員長　西尾善彦

第 54 回専門医試験委員会は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み，会場開催はせず，5 月下旬に書面決議を行った．第 32 回糖尿病専門医試験にむけて，試験方法と出題問題の作成分担，口頭試験担当者，試験監督担当者を決定した．

8 月 8 日に委員長ならびに数名の委員が，提出された試験問題のチェックを行い，9 月 19 日に試験問題の選定が行われた．

第 32 回糖尿病専門医試験は 10 月 24 日パシフィコ横浜において実施した．

受験者は 349 名（内科 331 名，小児科 5 名，小児科特例 13 名）で，11 月 7 日に合否判定案を作成，11 月 21 日に専門医認定医委員会に報告を行った．

次年度，第 33 回の試験は 2022 年 10 月 23 日（日）パシフィコ横浜にて実施予定．

〈その他学会活動に関する報告〉

30. 選挙管理委員会　　委員長　前川　聡

前々委員会および前委員会のもとで実施された第 66 回・第 67 回会長選挙は，コロナ禍の影響により学術評議員会が従来とは異なる方法で開催されたことに伴い，いずれも HP 上の操作により投票が行われた．

その後も新型コロナウイルス感染症の収束が見込めておらず，今回の学術評議員会も過去 2 回と同様に HP 上の操作により投票が行われることとなり，会長選挙の投票も同様に行われることとなった．

本委員会では，細則に沿って，支部への候補者の推薦依頼を行い，理事会を経て決定された候補者に対し，例年と同様に所信の提出を求め，委員会で承認のうえ HP の会員専用ページに掲載した．

なお，今回も会長候補者が 1 名であるため，前回

と同様に投票は信任投票となる.

31. 将来計画委員会　　委員長　綿田裕孝

1）委員会開催：2022 年 3 月 31 日に第 3 次第 3 回委員会を Web で開催した.

2）「インスリン発見 100 周年記念シンポジウム」を 2021 年 11 月 14 日に開催した．本委員会と現幹事で構成された実行委員会で企画，制作をおこなった.

3）2023 年度に開催される「日本医学会総会 2023 東京」で展示するポスターを本委員会が主体となって制作する予定である.

4）診療報酬，専門医の課題，若手の研究スピリッツなど様々な意見があがっているが，提案内容をまとめ，理事会への提言を検討している.

32. 定款・細則検討委員会　　委員長　綿田裕孝

2021 年 10 月 31 日に Zoom による Web にて委員会を開催し，定款・細則の変更について検討した．また，定款変更に必要な社員総会における委任状の提出件数を確保するための方法について検討した.

2021 年 12 月 12 日に Zoom による Web にて委員会を開催し，11 月 28 日開催の定例理事会において，本委員会において検討することとされた「会計年度期間の変更」および定款・細則の変更について検討した.

33. 糖尿病医療者・研究者のダイバーシティを promote する委員会　　委員長　佐藤麻子

1）委員会開催：3 回（2021 年 5 月 9 日，10 月 10 日，12 月 13 日）

*上記委員会の他に，グループ別小委員会：2 回（2021 年 6 月 3 日，2022 年 2 月 18 日）/第 65 回年次学術集会でのシンポジウムに関する打合せ（2021 年 9 月 14 日）/委員長・副委員長・各グループリーダーによる打合せ（2021 年 11 月 18 日）を開催した

2）第 64 回年次学術集会において，5 月 20 日にシンポジウム「糖尿病領域におけるダイバーシティの推進」を開催した

①上記シンポジウムに先立ち，学会員を対象にアンケート「チーム医療・資格取得・学会発表・論文投稿・ジェンダーから考える」を実施し，2,284 件の回答を得た

②アンケート結果は上記シンポジウム内で紹介し，雑誌「糖尿病」にも投稿予定である

3）2021 年 7 月に，第 64 回年次学術集会参加者を対象に「若手医師・若手研究者の promote のためのアンケート」を実施した

①アンケート結果については，第 65 回年次学術集会のシンポジウム内にて「研究実施者と未実施者へのアンケート調査から捉えた糖尿病研究の実態と課題」として発表する予定である

4）2021 年度地方会については，［北海道，関東甲信越，中部，近畿，中国・四国，九州］の各支部で本委員会企画セッションが開催された

5）本委員会の前身である［女性糖尿病医を promote する委員会］で運営していた本学会 Web サイト内ページ［女性糖尿病医サポートの取り組み］について，本委員会による運営ページ［糖尿病医療者・研究者 サポートの取り組み］へとリニューアルし，2021 年 3 月 31 日に一部コーナーの先行公開を行った

①4 月末に全体公開を行う予定として，引き続き作業を進めている

34. 広報委員会　　委員長　綿田裕孝

1）委員会開催：1 回（2021 年 4 月 2 日）

2）2016 年 10 月に行った「禁煙宣言」以降，毎年 10 月 -11 月頃に「MyPage」アンケートを利用して 5 年間（2016-2020 年）実施した［「禁煙宣言」に関する実態調査］の結果をまとめ，「糖尿病 News」2021 年 No.4（10 月 31 日発行）に掲載した

3）2020 年 3 月に公開した学会 Web サイト リニューアルの際に pending としていた［一般の方へ］ページ内のコンテンツについて，2021 年 9 月に［糖尿病ってどんな病気？］［糖尿病合併症について］［糖尿病の治療について］を公開した

①上記ページ内容は「糖尿病治療の手びき 2020（改訂第 58 版）」からの部分抜粋となっており，同書籍の売上に少しでも寄与できればと考えている

35. 利益相反委員会　　委員長　綿田裕孝

1）今年度には委員会を開催していない.

2）「糖尿病診療ガイドライン」，「高齢者糖尿病診療ガイドライン」「小児・思春期糖尿病診療ガイドライン」3 書籍の次改訂作業開始に伴い，各書籍の策定および評価委員の委員就任承諾時の「役員における COI 自己申告書」の提出を今回から実施した.

36. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会　　委員長　島田　朗

2022 年度の診療報酬改定に向けて内保連を通し

ての提案案件3項目のうち，周術期血糖管理料，SGLT2阻害薬使用中の1型糖尿病における血中ケトン体自己測定加算について，7月の厚労省ヒアリングにおいて，プレゼンテーションを行ったが，結果としては，「SGLT2阻害薬使用中の1型糖尿病における血中ケトン体自己測定加算」のみ採択された．

2021年度年次学術集会にて提起された，急性期病院における重症度看護必要度の問題について，現在，同年次学術集会会長の戸邊理事とともに認定施設に対してアンケート調査を行っており，今後，この結果を踏まえて，厚労省に申し立てをする方針である．

なお，保険改定に伴い，間歇スキャン式持続血糖測定器（isCGM）：FreeStyleリブレに関する見解を改定した．

37. CGM適正使用推進委員会　委員長　島田　朗

1）今年度は委員会を開催していない．

2）日本メドトロニック社ミニメド700シリーズの薬事承認を受け，リアルタイムCGM適正使用指針の改訂版を10月にホームページに掲載した．

3）他の新機種も発売されたこともあり，リアルタイムCGM e-ラーニングを改訂し，ホームページに掲載した．

〈対外的活動に関する報告〉

38. 国際交流に関する報告　担当理事　稲垣暢也

1）国際糖尿病連合（IDF）

① IDFに関する事項

・IDF Diabetes Complications Congress 2020（Lisbon）およびIDF Congress 2021（Bangkok）が延期され，前者はIDF Virtual Congress 2021として2021年12月6-11日に開催された．後者はIDF Congress 2022（Lisbon）として2022年12月5-8日に開催予定である．

・2021年7月26日開催のPostal Ballotにより，2021年のGeneral Assemblyは2022年末に開催する事が可決された．

② IDF-WPRに関する事項

・2020年The 13th IDF-WPR Congress（Shanghai）（The 12th AASD Scientific Meetingと共同開催）はCOVID-19の影響により延期され，2021年7月16-18日にハイブリッド形式での開催を予定していたが，再度延期（開催日未定）となった．

・IDF Virtual Congress 2021に於いて，シンポジウム“IDF-WPR Disasters and Diabetes”が12月11日に開催され，当学会より門脇孝理事がCo-Chair，脇裕典会員がSpeakerとして登壇した．

2）アジア糖尿病学会（AASD）

・The 13th AASD Scientific Meeting（ICDM 2021と同時開催）は，2021年10月7-9日にハイブリッド形式で開催された．

・The 14th AASD Scientific Meetingは第37回日本糖尿病合併症学会/第28回日本糖尿病眼学会総会（2022年10月21-22日開催）と合同で開催される予定である．

3）欧州糖尿病学会（EASD）

EASD 2021（9月27日～10月1日，Virtual Meeting）Associations' Villageに学会ブースを出展した．バーチャルブースでは年次学術集会や英文誌の紹介資料を掲示した．

① East-West Forumに関する会議

第9回East-West Forumが第64回日本糖尿病学会年次学術集会において，事前収録によるWEB配信で開催された．“Which outcomes are driving the therapeutic perspectives-differences and similarities”をテーマとし，双方から2名ずつ演者の講演と，座長を含めたディスカッションを行った．次回は，The 58th Annual Meeting of EASD（ストックホルム，2022年9月）において“Eradicating diabetes stigma”をテーマに開催予定である．

②欧州糖尿病財団（EFSD）との交換留学プログラムに関する会議

EFSDからの提案を受け，2020年度に続き2021年度，2022年度の募集も延期を決定した．EFSDとの本プログラムは継続し，募集再開前にプログラム覚書を更新する予定である．

4）日韓関連

2021年5月6日～8日にハイブリッドで開催されたKDA spring meetingにおいて，Korea-Japan sessionが5月8日Virtualで開催された．稲垣国際交流委員長がOpening addressを述べ，日本側から徳本信介会員と霜田雅之会員がSpeakerとして講演した．

5）JDI関連

査読，投稿に関する当学会の支援のもと，2021年インパクトファクター4.232（ISI Journal Citation Reports © Ranking：2021：64/146（Endocrinology & Metabolism））を取得した．

39. 日本医学会に関する報告

評議員　植木浩二郎

第30回日本医学会公開フォーラム，および，第159回日本医学会シンポジウムはいずれも無観客に

て収録された.

2021 年度日本医学会への新規加盟学会は日本肝胆膵外科学会，日本臨床神経生理学会，日本食道学会の 3 学会に決定した.

2021 年度の役員改選において，本学会関連では，門脇孝会員が副会長に，春日雅人会員が理事に再任された.

40. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

①「健康日本 21」の糖尿病対策検討委員会

委員長　荒木栄一

今年度は委員会を開催しなかった．日本医師会からの要請を受けて「糖尿病治療のエッセンス」の改訂案の作成を「糖尿病治療ガイド」編集委員会に依頼した.

②糖尿病データベースの構築委員会

委員長　荒木栄一

日本糖尿病学会では現在，JDCP　study と J-DREAMS という 2 つの大規模データベースを有している.

（1）JDCP study 研究調整委員会

委員長　西村理明

JDCP　study は，対象とした糖尿病患者 6,338 例を 8 年間追跡した観察研究である．2017 年 10 月末日で登録症例の追跡を終了した．観察期間 3 年，5 年および 8 年の追跡率は，それぞれ，81.9%，73.0%，および 57.3% である．2021 年度末に，すべての追跡データの固定作業が完了した．膨大な時間をかけ，イベント固定にご尽力くださった各 WG の先生方に心から御礼申し上げたい.

ベースラインデータに関しては，網膜症，腎症，歯周病に関して論文化が終了している．食事療法と運動療法に関しては両 WG が連携した論文が「DI」誌に過日，掲載された．また，神経障害 WG も論文化をすすめている.

追跡データに関しては，大血管 WG が全追跡期間中のイベントについての論文を完成し，Acta Diabetol 誌に掲載された．追跡期間中の心血管疾患の粗発症率は 9.5/32.3（CVD の既往無し/有り）/1000 人年であった．現在，食事療法・運動療法 WG と大血管 WG が協力して，詳細な検討を行っている.

今後，追跡期間中の死亡，癌の発生を筆頭に解析を進め，さらに，複数の WG が協力した解析にも着手し，20 本以上の論文執筆にあたる予定である.

本研究にご協力頂いた医療機関の諸先生，医療スタッフの方々に心から御礼を申し上げます.

（2）診療録直結型全国糖尿病データベース事業（J-DREAMS）合同委員会

委員長　荒木栄一

1）委員会開催：1 回（2021 年 11 月 28 日）

2）ノボ ノルディスク ファーマ（ノボ社）と日本糖尿病学会および国立国際医療研究センターの共同研究について，10 月 11 日付けでノボ社よりプレスリリースが発出された

（「ノボ ノルディスク ファーマ，日本糖尿病学会および国立国際医療研究センターによる 2 型糖尿病患者の GLP-1 受容体作動薬療法に関する共同研究を開始」）

3）2015 年度に始動した診療録直結型全国糖尿病データベース事業「J-DREAMS（Japan Diabetes compREhensive database project based on an Advanced electronic Medical record System）」について，2022 年 3 月末時点で 69 施設が参加し，約 80,000 症例登録され，目標であった 50,000 症例を達成した

①今後も参加施設数と症例登録数の増加を目指し，今後 2 年以内に登録症例 100,000 件を目標とする

②データ入力に使用している各ベンダー（IBM，富士通，NEC，ソフトウェアサービス，FINDEX，キヤノン）のテンプレートについては，使い勝手や継続性の向上を目指し改善に取り組んでいる

③全国共通版テンプレートを改訂し，フレイル・サルコペニアに関する項目が入力できるように改修し，全参加施設のテンプレートを更新する作業が完了した

④MSD 社との共同研究契約の成果としてベースライン論文を投稿し，2021 年 4 月に採択された（Diab Res Clin Prac 2021；178：108845）

⑤2021 年度から企業との共同研究を 3 件（ノボ ノルディスク ファーマ，日本ベーリンガーインゲルハイム，アステラス製薬）開始しており，現在，更に複数企業との共同研究の予備検討と協議を進めている

41. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会　理事長　中村二郎

日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は，第 36 回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を，前川 聡会長（滋賀医科大学　糖尿病内分泌・腎臓内科）の下，第 27 回日本糖尿病眼学会総会と合同

で 2021 年 10 月 8 日～9 日の 2 日間，びわ湖大津プリンスホテルにてハイブリッド形式で開催された．シンポジウムが合併症学会として 9 題，眼学会と合同で 4 題，そして一般演題は例年通り全てワークショップ形式で行われた．市民公開講座は開催されなかった．

本学会が設けた各学会賞は以下の受賞者に贈呈され，受賞講演が行われた．

Outstanding Foreign Investigator Award：Vlado Perkovic 先生（MBBS, University of Melbourne）

Distinguished Investigator Award：山本　博先生（公立小松大学）

Expert Investigator Award：横手幸太郎先生（千葉大学）

Young Investigator Award：長尾元嗣先生（日本医科大学）

同　　上：辻本哲郎先生（虎の門病院）

第 37 回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は，稲垣暢也会長（京都大学）の下，2022 年 10 月 21，22 日の 2 日間，国立京都国際会館にて開催されることが決定している．

学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め 3 回発行された．

42. 日本糖尿病協会委員会　　担当理事　稲垣暢也

本年度は委員会を開催しなかった．

①日本糖尿病学会・日本糖尿協会合同アドボカシー委員会　　委員長 山田祐一郎

1）日本糖尿病学会：植木浩二郎，門脇孝，山内敏正，原田範雄，加藤明日香，橋本英樹
日本糖尿病協会：清野裕，山田祐一郎（兼学会），津村和大，野見山崇，黒江ゆり子，飯野奈津子，田中永昭

2）2021 年 12 月 11 日に第 1 回会議（hybrid）を開催した．

3）名称をめぐる国際的動向を橋本委員から紹介され，英語圏でも diabetics や diabetes patients などの表現は，意図の有無に関わらず，患者のアイデンティティを否定する言葉であるとの認識が進み，様々な言葉の入れ替えが提唱されている．漢字圏であるわが国では，さらに「糖尿病」という病名の問題点もある．

4）「糖尿病」の病名を変更する方向で活動することを合意するが，まずは医療者から意識改革に取り組み，変えられるところから変えていくことの重要性を再認識した．すなわち，医療現場で使う言葉，例えば服薬アドヒアランス，血糖コントロール，生活習慣病，療養指導，などの見直しを医療の中で考え，日本医学会にも提言していくことが必要である．

〈合同委員会に関する報告〉

43. 糖尿病性腎症合同委員会

世話人　植木浩二郎

2021 年 12 月 5 日（日）に WEB により委員会を開催した．本学会の委員のうち，宇都宮一典会員，古家大祐会員が退任し，金崎啓造会員，川浪大治会員が就任した．

病期分類の改訂ワーキンググループ（WG）を設置することとなり，各学会から 2 名の委員を選出して 2022 年 1 月 9 日に第 1 回の会議が実施された．

44. 膵臓移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員会/臓器移植関連学会協議会

■膵臓移植中央調整委員会　　委員長　粟田卓也

1）委員会開催：web 会議 2 回（2021 年 12 月 4 日，2022 年 3 月 22 日）

2）2022 年 3 月 31 日現在の膵臓移植希望者申請書類受付は累計 1004 件であった．ネットワーク登録済みの待機患者数は 190 件，死体膵移植済み 443 件，生体膵移植 4 件，待機中死亡 74 件，取消 106 件であった．

3）琉球大学病院，筑波大学病院，自治医科大学病院の 3 施設より膵臓移植実施施設の申請を受け検討し審査を終えた．琉球大学病院は昨年 2021 年 11 月に移植関係学会合同委員会で新規施設として承認され，筑波大学病院と自治医科大学病院は現在承認申請中である．また，旭川医科大学病院からの申請は不備で戻しており再提出を待っている状況である．

4）名古屋赤十字第二病院の名称変更に伴い，移植関係学会合同委員会に名称変更依頼申請手続きをおこなった．

5）膵臓移植実施施設の更新について持ち回り審議を行い，条件付きで 18 施設全ての更新が認定された．

6）膵臓移植実施施設の認定基準の見直しを検討しており，それに伴いブロック別と施設別の申請数およびブロック別の移植実施数と施設別の移植予後を膵・膵島移植に関する常置委員会と連携して調査する予定になっている．

■移植関係学会合同委員会

委員　稲垣暢也，岩本安彦

持ち回り審議にて，下記施設の認定が承認された．

①第 42 回移植関係学会合同委員会（2021 年 6 月 3 日付）
順天堂大学医学部附属順天堂医院（腎臓移植実施施設）
②第 43 回移植関係学会合同委員会（2021 年 11 月 9 日付）
琉球大学病院（膵臓移植実施施設）

■日本臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会　世話人　岩本安彦

2021 年 11 月 5 日に Web 形式で開催された．臓器提供と臓器移植の現況や，移植医療への取り組みと提供施設，移植施設へのアンケート調査結果をもとに今後の臓器提供に関連する現状報告と今後の問題提起の議論をおこなった．

45. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長　谷澤幸生

1）2021 年 8 月 10 日にメール審議による会議を行なった
2）以下，日本医療情報学会との共同企画を開催した
　①第 64 回年次学術集会：シンポジウム 24「進化する糖尿病診療の IT 化―その効果と課題―」（LIVE 配信：2021 年 5 月 22 日 ※オンデマンド配信もあり）
　②第 41 回 医療情報学連合大会（ハイブリッド開催）：共同企画 3「生活習慣病 PHR アプリや治療アプリへの期待と相互運用性等の課題」（2021 年 11 月 19 日｜名古屋国際会議場）
3）以下，日本医療情報学会との共同企画を開催予定である
　①第 65 回年次学術集会（ハイブリッド開催）：シンポジウム 22「糖尿病領域の大規模臨床医療データサイエンスの展望」（2022 年 5 月 13 日｜神戸ポートピアホテル他）
　②第 42 回 医療情報学連合大会：詳細未定（2022 年 11 月 17 日 -20 日｜札幌コンベンションセンター）
4）本合同委員会より派生した「6 臨床学会拡大会議（日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会＋日本医療情報学会）」について，今年度からそこに日本肥満学会＋日本糖尿病協会を加えて「生活習慣病関連団体拡大会議」として活動を行うことになった
　①拡大会議開催（1 回）：2021 年 5 月 14 日
　②項目セットの商用利用および本拡大会議の継続運営の方法について昨年度より引き続き検討を行っている
5）製薬企業等による患者向けアプリの開発等が活発化していること，またマイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）の開始と併せてマイナポータル医療者閲覧の運用開始もあり PHR に関連する動きが活発化していることを受け，PHR・EHR の連携/各アプリ・サービス間でのデータポータビリティの担保のためには本合同委員会および 6 臨床学会で作成した「コア項目セット」「自己管理項目セット」「Personal Health Record（PHR）推奨設定」の周知徹底が急務と考え，植木理事長・中島副委員長（日本医療情報学会）と対応を検討している
　①上記について 5 月に開催した生活習慣病関連団体拡大会議で説明を行い，関連団体・行政機関・企業に向けて以下シンポジウムを開催した
　　・「第 1 回生活習慣病領域における治療アプリや PHR に関するシンポジウム」（ハイブリッド開催）［2022 年 1 月 13 日｜一橋講堂］
　　現地参加*：製薬企業 8 名，その他企業 13 名，行政機関 1 名，その他 12 名
　　Web 参加：製薬企業 39 名，その他企業 68 名，行政機関 3 名，その他 21 名
　　（*登壇者を含む）
　②関連団体・行政機関・企業によるコンソーシアムの設立に向けて準備を進めている

46. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表　綿田裕孝

1. 今年度は合同委員会を 1 回開催した（2021 年 4 月 28 日）．
合同委員会には，拡大委員である日本癌治療学会，日本臨床腫瘍学会の委員も出席した．
2. がん主治医と糖尿病専門医を対象に実施する Web アンケート調査「がん治療中の糖尿病管理に関する調査」の解析結果について，委員会報告案としてまとめ，内容について合同委員・拡大委員にメール回覧によって確認された．
3. 委員会報告は，本学会の和文誌「糖尿病」に先ず投稿し，「糖尿病」への掲載後に英訳したものを英文誌「Diabetology International」，日本癌学会誌「Cancer Science」に投稿することを予定している．日本癌治療学会，日本臨床腫瘍学会の学会誌に掲載については各学会にて検討中となっている．

47. 日本糖尿病理学療法学会と日本糖尿病学会との実務担当者会議　　代表　植木浩二郎

本年度は委員会を開催しなかった.

48. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会　　代表　荒木栄一

2021 年 5 月 22 日（土）に第 7 回肝臓と糖尿病・代謝研究会が WEB で開催された（第 64 回年次学術集会と同時開催，会長：戸邉一之（日本糖尿病学会），事務局担当：日本糖尿病学会，オンデマンド配信 5 月 22 日（土）から 6 月 21 日（月））．プログラムとして，理事長声明，シンポジウム 3 セッション（計 18 演題），YIA 受賞口演（3 演題），Web セミナー 35（1 演題），一般ポスター（12 演題）が行われた.

参加者数は 34 名（本研究会のみの参加者．第 64 回年次学術集会参加者は含まず）で，視聴者数は，理事長声明：150 名，シンポジウム 1：202 名，シンポジウム 2：239 名，シンポジウム 3：136 名であった.

次回，第 8 回肝臓と糖尿病・代謝研究会（2022 年（令和 4 年）6 月 25 日（土）会場：奈良春日野国際フォーラムで開催予定（会長：吉治仁志（日本肝臓学会），事務局担当：日本肝臓学会））に関する合同委員会が 2022 年 1 月 14 日に Web で開催された．第 7 回研究会の開催報告と第 8 回研究会の HP 開設，演題に関する周知，共催状況などについての報告と演題募集期間について検討がなされた．第 9 回研究会事務局の出口尚寿先生から第 9 回は 2023 年 5 月 13 日（土）に鹿児島市となる旨の報告があった（第 66 回年次学術集会と同時開催，会長：西尾善彦（日本糖尿病学会），事務局担当：日本糖尿病学会）.

また，AMED 研究課題「糖尿病患者における肝細胞癌発生の実態把握とその分子機構」の進捗状況は以下の通りである.

日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同の疫学研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」は，AMED 研究費を得て，2017 年 1 月より調査を開始した．全国 333 の肝臓学会・糖尿病学会両学会の教育認定施設に対して，調査参加の呼びかけを行い，計 276 件の登録を得た．欠損値等を除いた 246 例について解析を行い，厚労研究岡上班の糖尿病コホート 3358 例を対照に糖尿病外来における肝発癌危険因子の同定を行った．結果 FIB-4 index が高危険群の囲い込みに有用である事が判明した．本研究結果は，Journal of Gastroenterology, 56（3），261-273 に掲載された．これに関し，5 月 22 日に両学会の共同声明を発出し，両学会 HP へ掲載した．同時に，プレスリリースを行った．今後，データクリーニングが完了した暁にはワーキンググループメンバーへのデータセット提供を行う予定である.

49. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会　　代表　荒木栄一

本年度も委員会は開催されなかった.

50. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会　　代表　稲垣暢也

1）日本糖尿病学会委員：池上博司，鈴木亮，山内敏正，山田祐一郎，綿田裕孝
2）委員会開催状況：Web 会議 4 回（2021 年 4 月 30 日，7 月 18 日，10 月 3 日，2022 年 3 月 30 日）
3）「高齢者糖尿病診療ガイドライン 2023」は，各委員に執筆協力者と SR 担当者を加えた体制で 2023 年 5 月刊行に向け改訂項目および CQ・Q を確定し改訂作業に着手した．本ガイドラインの策定要綱は，「糖尿病診療ガイドライン 2024」の策定要綱に準じることとした．そのほか，高齢者に限定したエビデンスがないような場合も想定されることから，そのような場合には高齢者を含む全年齢対象の論文も説明を加えながら含めるなど，エビデンスの採択基準は柔軟に対応する方針とした．また，そのような理由から，2023 年版では CQ の投票は行わず合同委員会による討議によって推奨の強さやエビデンスレベルを決定することとした.

51. 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する 3 学会合同委員会　　代表　植木浩二郎

1）日本糖尿病学会委員：稲垣暢也，益崎裕章，綿田裕孝
2）今年度上期に委員会は開催していない.
3）本コンセンサスステートメントは7月に書籍で発行し「糖尿病」65 巻 3 号にも掲載された．また，英文は日本糖尿病学会の英文誌「Diabetology International」Vol.13 No.1 に掲載された.
4）本合同委員会はコンセンサスステートメント公表，書籍発行，英文誌掲載により活動を終了した.

〈その他の報告〉

52. 演題登録時の倫理審査についての検討委員会　　担当理事　綿田裕孝

1）今年度には委員会を開催しなかった.

2）第64回年次学術集会終了をもって，第64回会長校の委員3名が退任した．第67回会長と委員2名の就任により，下記メンバーにて2021年度の委員会を発足した．

2021年度委員
綿田裕孝，池上博司，山内敏正，鈴木　亮，小川渉，坂口一彦，廣田勇士，西尾善彦，橋口　裕，倉野美穂子，植木浩二郎，大杉　満，坊内良太郎

3）研究カテゴリーは昨年と同様の分類で運用することとし，第65回年次学術集会の演題募集は2021年10月1日から開始された．

4）地方会では2019，2020年度2年間において移行措置期間を設けて対応してきたが，2020年度をもって移行措置期間を終了し，本年2021年度から年次学術集会と同様，演題登録時の倫理審査確認の必須化を実施している．また，学会HPの地方会演題の倫理審査必須化についても2021年度版の内容に更新した．

5）昨年同様，今回もホームページ上に質問フォームを設け申請者からの問い合わせに対応した．第62回年次学術集会から倫理審査を実施してきたが，3年が経過し周知されたこともあり問い合わせは減少している．

53．インスリン発見100周年記念シンポジウム実行委員会　　担当理事　綿田裕孝

1）委員会を2021年4月3日，幹事会を10月31日に開催した．

2）5月に本シンポジウムの運営を依頼する業者（3社）からの見積もり内容を精査した結果，本シンポジウムの運営を日本旅行株式会社に委託することを委員会で決定し，5月23日の定例理事会で承認を得た．

3）特設サイトを学会HPに7月1日から開設し，関連動画，告知動画を掲載し，毎月追加して公開した．理事からディスカッサントを推薦してもらい，20名のディスカッサントには発表スライドを作成頂いた．学会員を対象にアンケートを実施し，1,097件の回答があり，アンケート結果を集計，解析をしてディスカッションの材料とした．11月14日にライブ配信でシンポジウムを開催し，オンライン登録者2,007名に視聴いただいた．その後，12月1日にステートメント「今，あらためて糖尿病を問い直す」を公表した．12月1日～14日にオンデマンド配信をおこなった．

3.「糖尿病学の進歩」開催について

第58回「糖尿病学の進歩」

会　期　2024年2月16日（金）～2月17日（土）（予定）

会　場　国立京都国際会館（予定）

世話人　池上　博司（近畿大学医学部　内分泌・代謝・糖尿病内科）

※第59回「糖尿病学の進歩」の開催支部が九州支部に決定した．

4. 2021年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上，2021年度収支決算書が承認可決された．（本号 p54～p83）．

5. 2023年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上，2023年度事業計画が承認可決された．（本号 p84～p85）．

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した井口登與志会員，柏木厚典会員，および武田純会員の3名が定時社員総会において承認された．

7. 次々会長（第68回学術集会）の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第68回会長に金藤秀明会員が選出され，定時社員総会において承認された．

8. 第66回年次学術集会に関する件

2023年5月11・12・13日の3日間，かごしま県民交流センターほかにおいて開催の予定である．

9. 各種委員会委員の交代等に関する件

任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった．

1. 英文誌 Diabetology International 編集委員会
2022年度選出（任期は以下の通り）

■…継続：任期2020年6月～2024年5月

後…後任：任期2022年5月～2024年5月　※任期途中での委員交代

再…再任：任期2022年5月～2026年5月　※前期から継続して就任

新…新任：任期2022年5月～2026年5月

増…増員：任期2022年5月～2024年5月/2026年5月

理事会推薦	新	中村　二郎	愛知医科大学医学部
北海道	後	永井　　聡	NTT東日本札幌病院
	新	滝山　由美	旭川医科大学
東北	■	島袋　充生	福島県立医科大学
	新	脇　　裕典	秋田大学大学院医学系研究科

関東甲信越	■	佐藤　博亮	順天堂大学医学部
	■	島田　　朗	埼玉医科大学
	■	西村　理明	東京慈恵会医科大学
	再	石原　寿光	日本大学医学部
	再	竹本　　稔	国際医療福祉大学医学部
	再	弘世　貴久	東邦大学医学部
	増	小野　　啓	千葉大学大学院医学研究院
中部	■	戸邉　一之	富山大学医学部
	新	矢部　大介	岐阜大学大学院医学系研究科
	増	成瀬　桂子	愛知学院大学歯学部
近畿	■	河盛　　段	大阪大学大学院医学系研究科
	■	古田　浩人	和歌山県立医科大学
	新	田守　義和	神戸大学大学院医学研究科
	新	藤倉　純二	京都大学医学部附属病院
	増	能宗　伸輔	近畿大学医学部
中国・四国	■	松久　宗英	徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター
	再	和田　　淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
	増	村尾　孝児	香川大学医学部
九州	■	安西　慶三	佐賀大学医学部
	再	前田　士郎	琉球大学大学院医学研究科
	新	野村　政壽	久留米大学医学部

2. 小児糖尿病委員会

2022 年度選出（任期：2022 年度～2025 年度）

＊新委員，他委員は再任

北海道支部	母坪　智行	さっぽろ小児内分泌クリニック小児科
東北支部	高橋　和眞	岩手県立大学看護学部基礎看護学講座
関東甲信越支部	浦上　達彦	日本大学病院小児科
	菊池　　透＊	埼玉医科大学小児科
	小川　洋平＊	新潟大学医歯学総合病院小児科
中部支部	臼田　里香	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター内科（内分泌・代謝・糖尿病）
近畿支部	広瀬　正和	D Medical Clinic Osaka 糖尿病内科・小児科
	松井　克之＊	滋賀県立小児保健医療センター内分泌代謝糖尿病科
中国・四国支部	平井　洋生	愛媛大学医学部地域医療再生学講座
九州支部	阿比留教生	緑風会みどりクリニック

10. 2022 年度選挙管理委員会委員承認について

細則第 44 条により，下記の様に承認された．

北海道支部	丹羽　祐勝	にわ糖尿病内科クリニック
東北支部	薄井　正寛	大崎市民病院
関東甲信越支部	麻生　好正	獨協医科大学
中部支部	榊原　文彦	住吉町クリニック
近畿支部	松岡　孝昭	和歌山県立医科大学
中国・四国支部	米田　真康	広島大学病院
九州支部	本島　寛之	熊本総合病院
会長経験者	戸邉　一之	富山大学

11.「糖尿病学の進歩」運営委員会委員について

細則第 48 条④および「糖尿病学の進歩」運営委員会規定により，下記の様に決定された．

第 56 回「糖尿病学の進歩」世話人	大澤　春彦
第 57 回「糖尿病学の進歩」世話人	馬場園哲也
第 58 回「糖尿病学の進歩」世話人	池上　博司
第 65 回年次学術集会会長	小川　　渉
第 66 回年次学術集会会長	西尾　善彦
学術担当常務理事	荒木　栄一
庶務担当常務理事	綿田　裕孝
会計担当常務理事	山内　敏正

12. 学会後援について

申し込みのあった 10 件を後援することとした．

1. 第 8 回アジア栄養士会議（ACD2022）（2022 年 8 月 19～21 日）：パシフィコ横浜
2. 第 29 回国際高血圧学会（ISH2022）（2022 年 10 月 12～16 日）：国立京都国際会館
3. 第 21 回日本先進糖尿病治療・1 型糖尿病研究会（2021 年 10 月 8～9 日）：神戸商工会議所会館
4. 第 39 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー（2022 年 8 月 27～28 日）：志摩観光ホテルザ　クラシック
5. 第 65 回春季日本歯周病学会学術大会（2022 年 6 月 3～4 日）：京王プラザホテル
6. 栄養の日・栄養週間 2022（2022 年 8 月 1～7 日）：栄養ワンダー 2022（全国）ならびに Web サイト
7. 第 27 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会（2022 年 7 月 18 日）：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
8. 第 9 回日本糖尿病協会年次学術集会（2022 年 7

月 23～24 日）：国立京都国際会館

9. 第 57 回日本理学療法学術研修大会 in とやま（2022 年 7 月 9～10 日）：オンライン開催
10. 第 33 回分子糖尿病学シンポジウム（2022 年 12 月 3 日）：KDDI 維新ホール

以上　　文責　庶務担当常務理事　綿田裕孝